

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準） “教育は人なり” 「チーム両城」で誇りある学校を作ります - 私たちは、法令等を遵守します。 - 私たちは、子どもの人権を守ります。 - 私たちは、個人情報 の適切な管理・保護の徹底に努めます。 ※名札の裏に常に携帯する。		目の前の児童生徒を守ることが、 あなたの大切な人や、 あなた自身を守ることに つながります。										
私の不祥事 〇 ZERO 宣言 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">教育の原点</th> <th style="width: 90%;">子どもたちは私たちの姿を見て育ちます。…</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使命</td> <td>私たちは、子どもを、守り育てます。…</td> </tr> <tr> <td>遵法</td> <td>私たちは法令を、遵守します。…</td> </tr> <tr> <td>公正</td> <td>私たちは、不祥事を許しません。…</td> </tr> <tr> <td>公開</td> <td>私たちは地域に開かれた学校にします。</td> </tr> </tbody> </table> 県市立両城中学校 氏名 _____			教育の原点	子どもたちは私たちの姿を見て育ちます。…	使命	私たちは、子どもを、守り育てます。…	遵法	私たちは法令を、遵守します。…	公正	私たちは、不祥事を許しません。…	公開	私たちは地域に開かれた学校にします。
教育の原点	子どもたちは私たちの姿を見て育ちます。…											
使命	私たちは、子どもを、守り育てます。…											
遵法	私たちは法令を、遵守します。…											
公正	私たちは、不祥事を許しません。…											
公開	私たちは地域に開かれた学校にします。											

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	○計画的な研修やタイムリーな注意喚起等により、そのときは不祥事に対する意識は高まるが、不断の努力により、常に規範意識を高く持ち続けること、当事者意識を忘れずに取り組むことが課題である。	○服務研修の方法や内容等を見直し、より体験的な研修を実施して研修効果が実感できるようにする。 ○教育公務員としての自覚が高まるような服務に関する研修を計画に基づいて確実に実施する。	○服務研修の方法や内容等を各分掌主任に検討させ、研修効果が実感できるように工夫する。 ○自己申告書の面談に合わせてチェックリストを配付し、自己点検・相互点検を行う。 ○繰り返しの呼びかけや互いの注意喚起を継続し、当事者意識の向上を図る。 ○4月に不祥事の原因別分類からアプローチして発生のメカニズムや対処法を協議する。さらに本年度の不祥事防止ゼロに向けたキャッチフレーズを作成し、これに基づき学期ごとに振り返りを行う。	○学期に1回、全教職員で取組の振り返りを行い、次学期以降の取組を確認する。 ○個人面談の際に問いかけ、確認する。 ○毎学期後、「私の不祥事0 ZERO宣言」を振り返り、見直しと不祥事防止に向けての意識を高める。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	○学校を取り巻く状況や危機対応の重要性を認識しており、教職員一人一人が継続して主体的な行動をとっていくことが必要である。 ・生徒の危機意識を高めるように取り組んでいる教職員100%、危機管理マニュアルに基づいて行動している教職員100%。 ○職員室の環境はかなり改善されているが、まだ机上等の整理ができていないところがある。	○個人情報の適切な管理、保護に努め、流失、紛失を未然に防止する。 ○机上等の整理整頓を行う。 ○細かいことでも情報交流を行う。 報告・連絡・相談・確認を徹底する。 ○教職員全員で「毎日一つ楽しいことを見付けて声を出して笑う」ことに取り組むことで、風通しのよい職場の雰囲気づくりに努める。	○情報モラルに関する研修を充実させる。 ○個人情報の校外の持ち出しを原則禁止する。(やむを得ない場合は、必要最小限とし、管理職の許可を得る。個人情報の持ち出し簿に記入する。電子データを持ち出す際は公的USBを活用する。) ○各教職員パソコンのUSBキーを、所定の場所に保管・管理する。 ○個人情報に係る書類等は、各分掌部を通して一元化し、所定の場所に保管・管理する。 ○日頃から机上等の整理整頓を行い、能率よく業務が遂行できるように工夫する。	○学期に1回、諸表簿の点検を行う。 ○成績処理は、処理計画のもと、複数の者でチェックを行う。 ○退校前には、各自で机上等整理を行う。
相談体制の充実	○月1回の学校生活アンケートや各学期始めの個人面談等により生徒の援助希求は向上しているが、今後もさらに高めていく指導や環境を整えて行くことが課題である。	○「学校相談ダイヤル(体罰、セクハラ、性暴力等相談窓口)」の周知を繰り返し行うとともに、相談しやすい体制をつくる。	○学校だよりなどで保護者等に周知・啓発するとともに、校舎内全ての教室の見えやすいところにポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。	○学期に1回、生徒、保護者及び本校教職員を対象にアンケートを実施する。